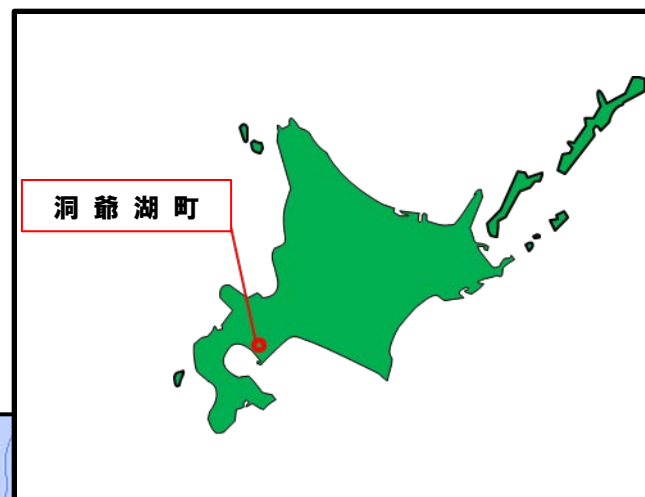
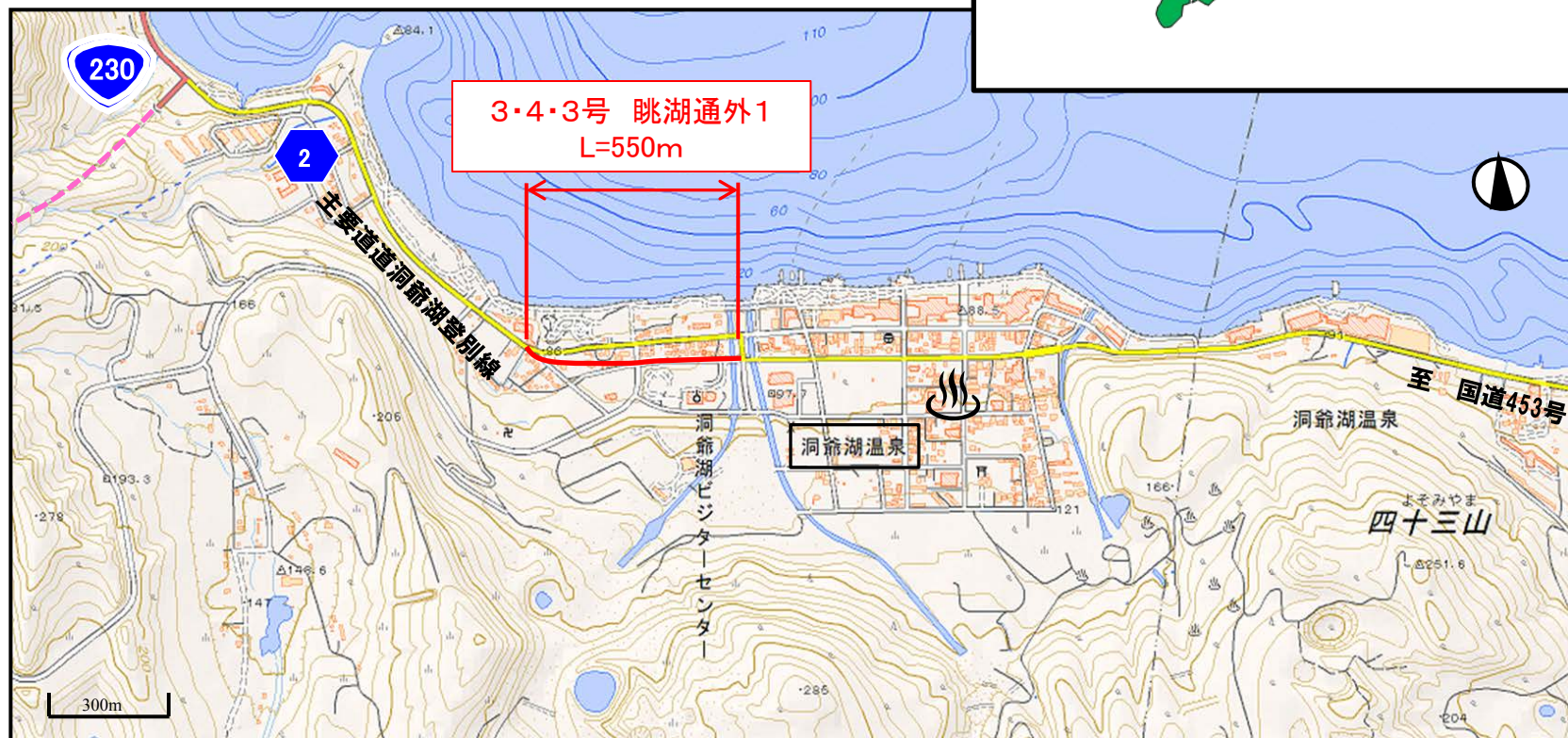


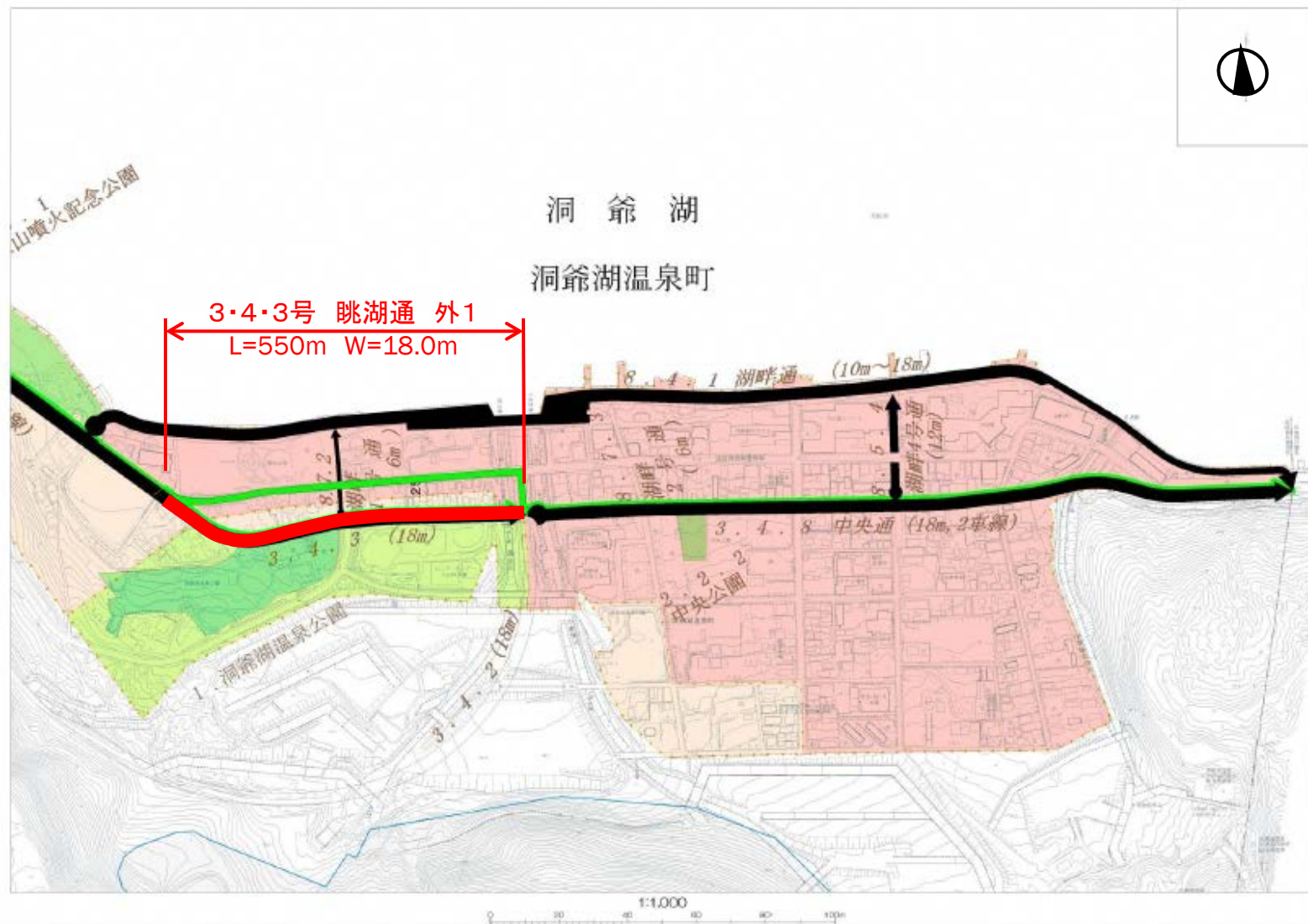
事業概要

ふりがな 応募者名	ほっかいどう 北海道
ふりがな 事業の名称	あぶたとしけいかくどうろ3・4・3ごうちょうこどおり ほか1せいびじぎょう 虻田都市計画道路 3・4・3号眺湖通外1 整備事業
ふりがな 事業主体	ほっかいどう いぶりそうごうしんこうきょく むろらんけんせつかんりぶ 北海道 胆振総合振興局 室蘭建設管理部
ふりがな 実施都市名	ほっかいどうあぶたぐんとうやこちょう 北海道虻田郡洞爺湖町
事業概要 (400字以内)	本事業は、広域幹線道路である国道230号と国道453号を連絡する幹線街路の拡幅整備を行うものである。 周辺には温泉街が形成され、近年の洞爺湖サミット開催や世界ジオパーク認定を契機に観光客が増加し、大型観光バスなどの交通量が増加していたが、現道の歩道幅員が狭小のため、通学児童が車道を通行するなど危険な状況にあった。また現道の車道幅員も狭小のため、大型貨物などの通過交通が周辺道路に流入し、交通混雑が発生していた。 本事業にて拡幅整備を行った事により、通学児童や観光客にとって安全安心な歩行空間を確保する事ができた。また通過交通を当該路線に転換できた事により、周辺道路の交通混雑解消に寄与する事ができた。
事業規模	○事業延長: 550m ○幅員: 18m(2車線) ○事業費: 約12億円 ○事業期間: 平成22年7月16日～平成30年3月31日
事業の目的	3・4・3号眺湖通は広域幹線道路である国道230号と国道453号を連絡する幹線街路で、周辺にはホテルや旅館などの温泉街が形成されている。 当事業は、狭小な歩車道の拡幅により、安全安心な歩行空間を形成し、円滑な交通確保を図る事を目的とした。
事業効果 (効果一覧を参考に 具体的な効果を記入)	○需要の増加-観光入込客数の増加(約45%増 平成23年調査:202万人⇒平成29年調査:293万人) ○流通・交通の活性化-旅行速度の向上(平成21年調査32.9km/h⇒平成29年調査:34.5km/h)
地元対応等 ・地域住民との協働等 ・合意形成等を図ったか ・地域に配慮した点	3・4・3号眺湖通は沿道の住民や、観光客などの歩行者が多数利用するため、標識や防護柵などについては景観に配慮した塗装としたことや、植樹帯にはマルチング材を敷き詰めることにより、雑草の防止や客土の飛散防止を図るなど沿道環境への配慮を行っている。

事業位置図

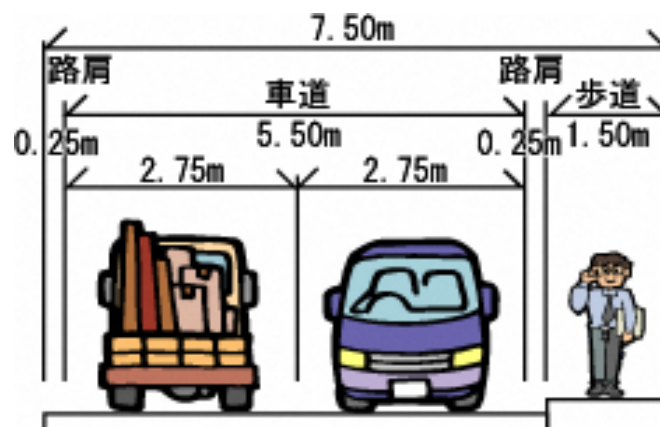


都市計画図(用途地域図)

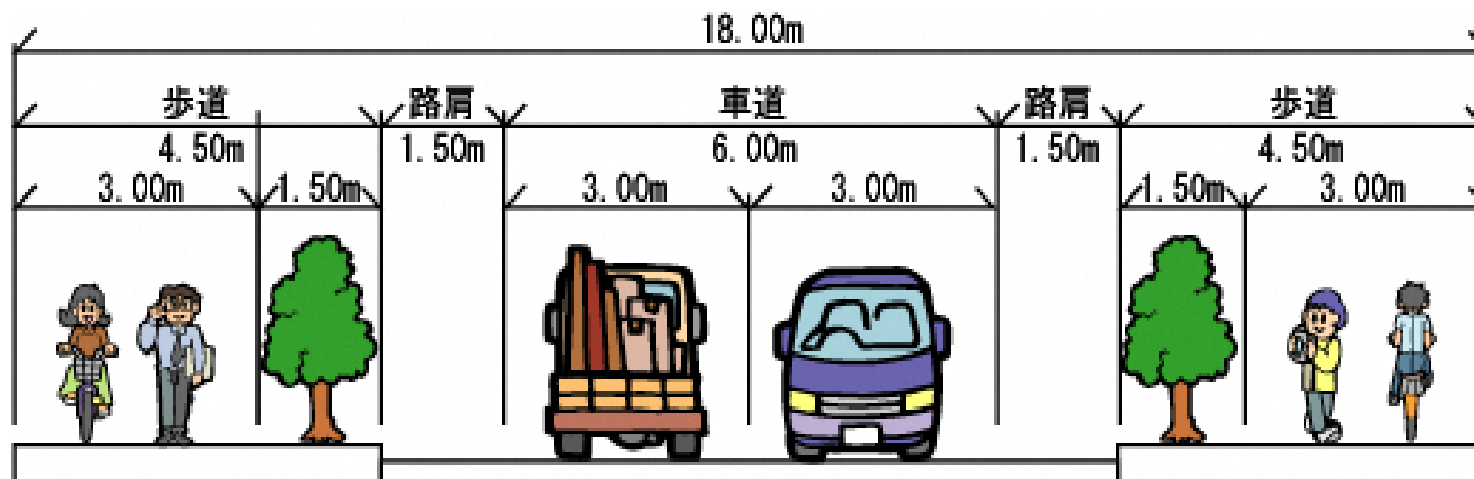


断面図

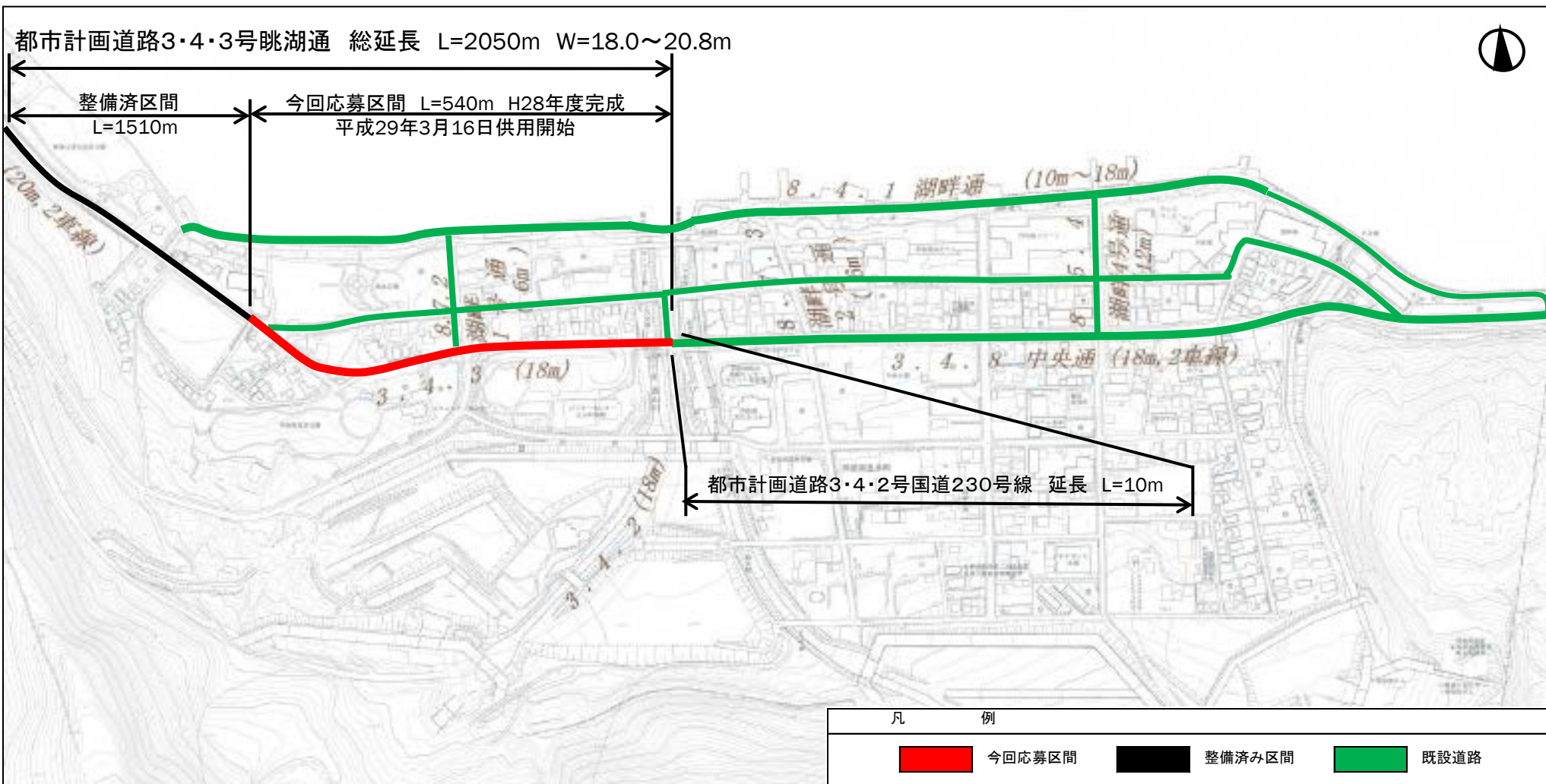
▼整備前



▼整備後



路線全体の進捗状況



※整備済み区間は街路断面では未整備

事業前写真



※車道幅員が狭小



※大型車とのすれ違いが困難

事業後写真



平成29年9月撮影



平成29年9月撮影

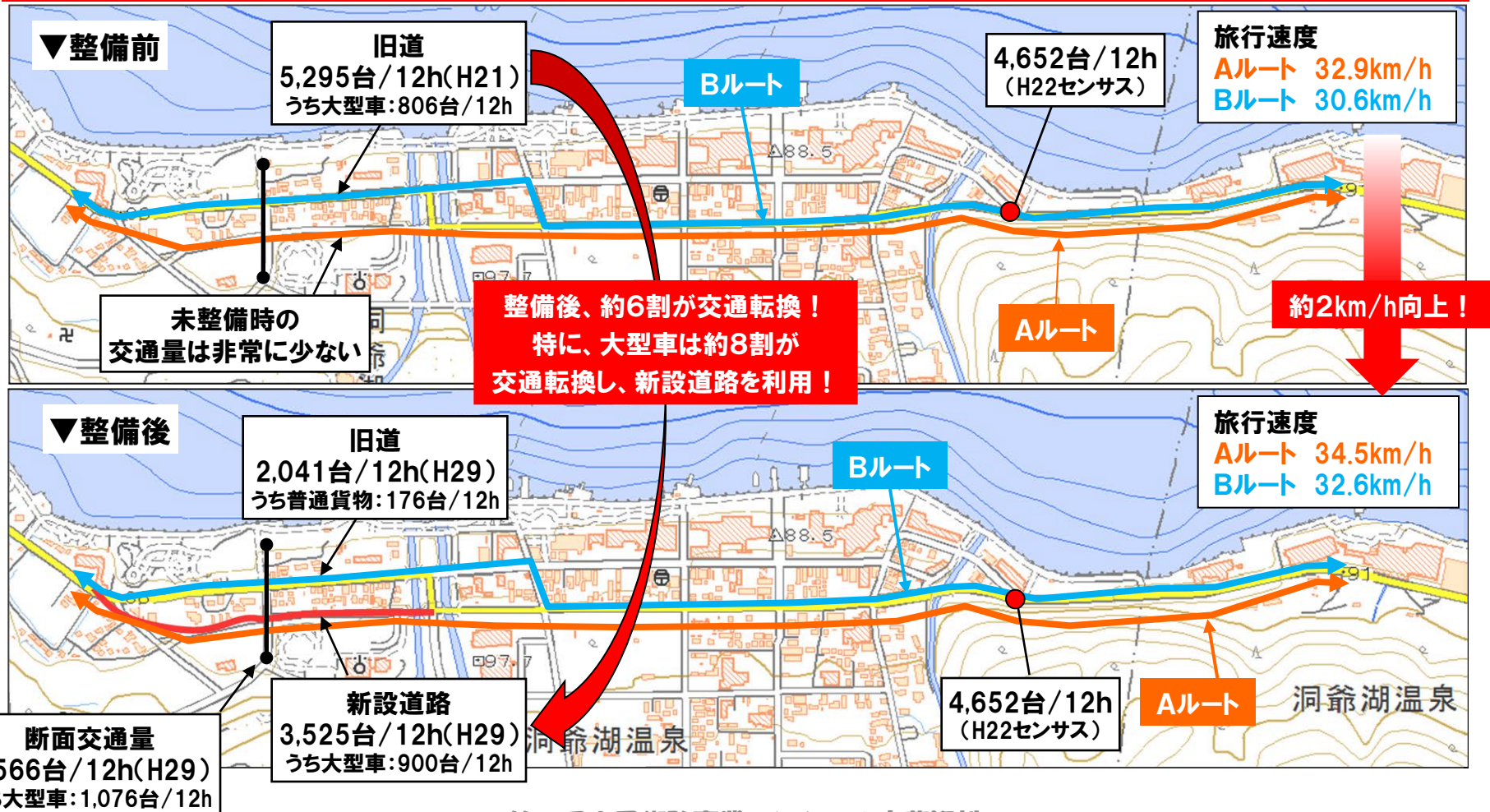
3・4・3号眺湖通の事業効果アピール資料

自動車交通の転換による効果

◆整備前の旧道は、洞爺湖温泉街を通るルートであるが、通過交通が多く歩行者も多いため旅行速度が低下していた。

◇整備後の新設道路に、約6割の交通量が転換した。

◇温泉街を回避するバイパスルートが新設道路の整備により完成し、走行環境の向上や通過交通と観光交通の分担が図られ、整備後の旅行速度は32.9km/hから34.5km/hに約2km/h（Aルート）向上した。



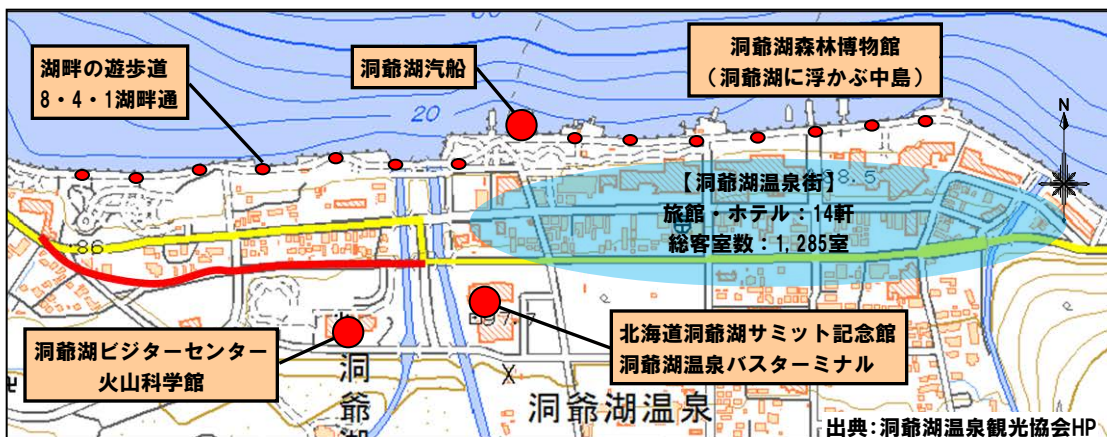
3・4・3号眺湖通の事業効果アピール資料

地域観光の振興

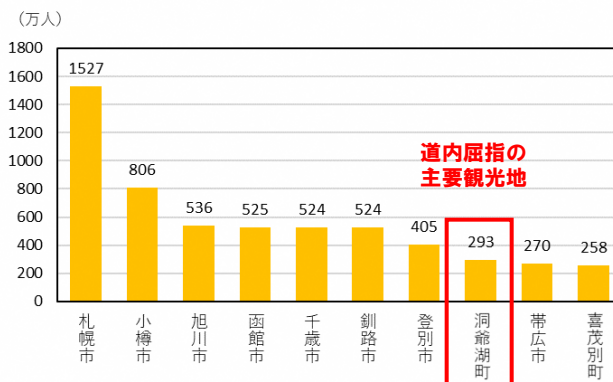
- ◆洞爺湖湖畔に温泉街が広がり、その中でも洞爺湖温泉が中心地であり、旅館・ホテル14軒（総客室数1,285室）が立ち並び、遊覧船の発着場もあり、洞爺湖観光の中心となっている。
- ◆当該路線の沿線には洞爺湖ビジターセンターがあり、年間約7万人に利用されている。
- ◆洞爺湖温泉は北海道の温泉地の中でも人気が高く、一時減少した観光入込客数もH23以降回復基調にある。

◇当該路線の整備により、洞爺湖温泉街の景観が向上し、観光客の増加や満足度の向上が期待できる。
 ◇洞爺湖ビジターセンターへの観光客の増加や満足度の向上が期待できる。

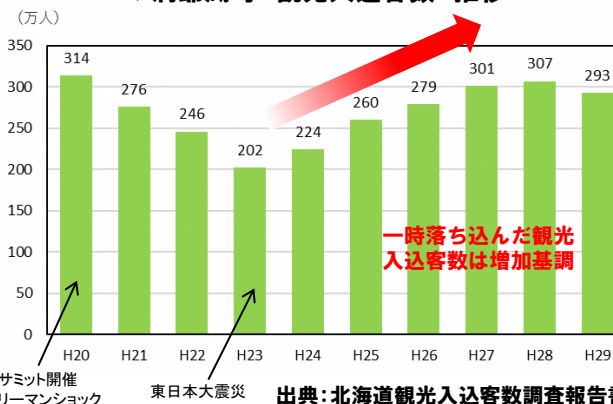
▼洞爺湖温泉周辺観光施設



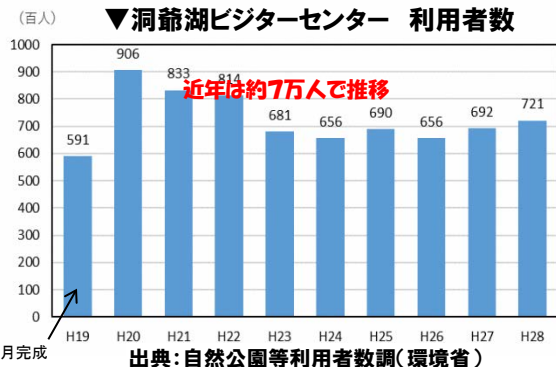
▼北海道観光入込客数 上位10市町村(H29)



▼洞爺湖町 観光入込客数 推移



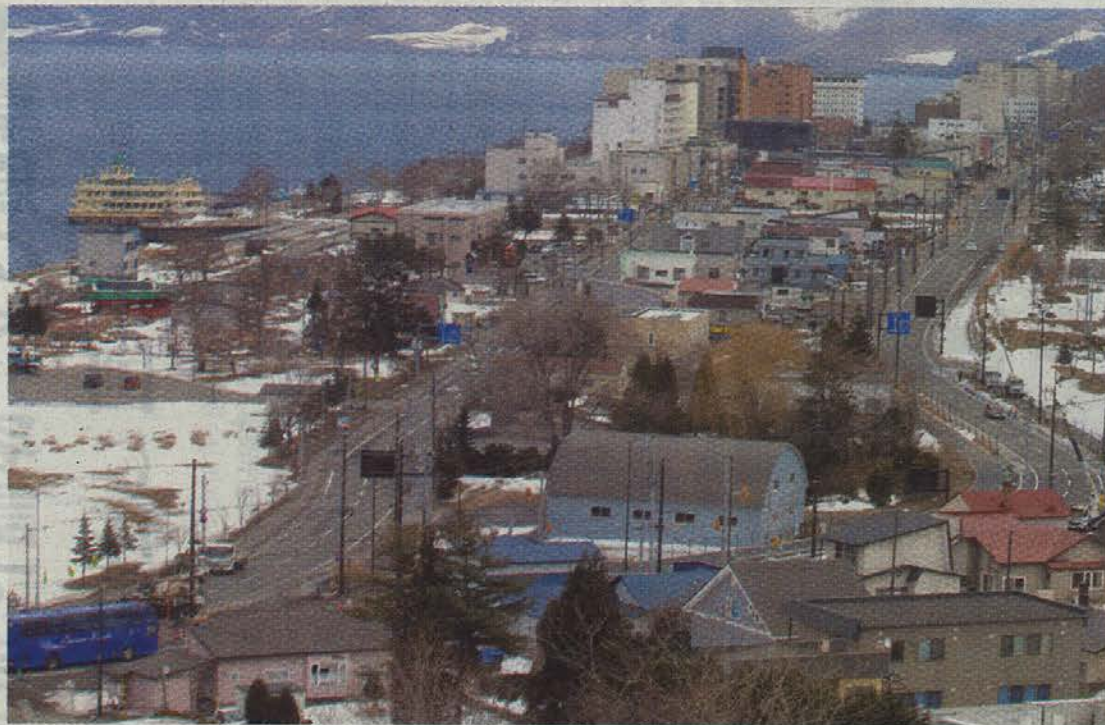
▼洞爺湖ビジターセンター 利用者数



室蘭民報

平成29年3月17日(金)

写真右の山側を走る新道路に切り替わった道道洞爺湖登別線・眺湖通。16日に供用が始まった



道路幅広く安全性高まる

温泉街バイパス開通

道道洞爺湖登別線・眺湖通

洞爺湖

道が2010年度(平成22年度)に事業着手した、洞爺湖町の洞爺湖温泉街をバイパス(迂回)する道道洞爺湖登別線・眺湖通の新道路が16日午前、開通した。この道路は、温泉街の宿泊施設前を走る現道路が、2000年有珠山噴火に伴い掘削した国道230号の新トンネル開通後、トラックなどの大型車両が頻繁に通行し危険があるとして、山側ヘルートを切り替える一環で新設した。

計画区間は北海ホテル前から洞爺湖ビジターセンター・火山科学館に近い、なかよし橋角交差点までの延長550m、幅員18m。16年度は、残っていた160m区間を整備し、信号の移設や一時停止の向きを変更した。総事業費は12億6千万円。

同日は、壮瞥町側にある洞爺温泉ホテル華美前の町道との交差点の主従関係も切り替え、バイパス路としての本格供用が始まった。

室蘭建設管理部洞爺出張所の菅原英二所長は「道路幅が広がり、安全性は格段に高まる」としている。

北海ホテル前の交差点から温泉街へ向かう現道路への取り付け道路工事は6月30日までを予定。交差点につながる現道路の一部区間を24時間通行止めにして工事する。(野村英史)